

令和4年度 学校評価

■ 4 そう思う ■ 3 どちらかといえば、そう思う ■ 2 どちらかといえば、そう思わない ■ 1 そう思わない ■ 0 わからない

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 道徳・心の教育の充実
学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）
<p>考察 本校では、心の教育の充実を重点事項として掲げており、質問1の保護者の3・4の回答は、昨年度より4ポイントずつ上昇している。授業参観、家庭訪問、体育大会や学習発表会等の学校行事など、学校での生徒の姿を見る機会が増え、生徒が落ち着いて学習や活動に取り組む様子を見ていただくことができたためと思われる。一方、質問1において生徒の3・4の回答は、6ポイント下降している。絆アンケート、日常の観察や声掛けなど、教職員が生徒一人一人を見ながら生徒を支援していると思っても、十分に把握しされていない部分があることが考えられる。学校が落ち着いていることに慢心せず、生徒に寄り添い、誰一人取り残さない姿勢を大切にしていける必要がある。</p>	

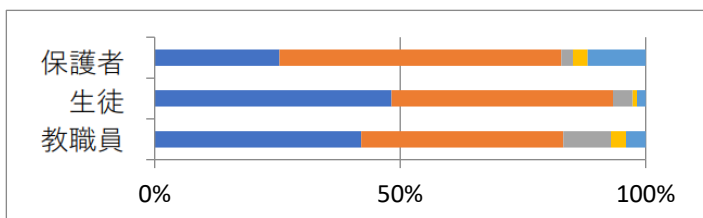
②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進	
3 授業力向上	4 タブレット端末活用
先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。
<p>考察 質問3・4において、生徒の3・4の回答は昨年度を上回り、9割以上の到達度を示している。ICTを使った授業が定着し、生徒も学習に活用できるようになったことがうかがえる。また、今年度は熊本市特活研の公開授業校に指定され、特活だけでなく全教科において、熊本市授業づくりの視点を取り入れた「教師が教える授業」から「子どもが学びとる授業」への転換を図った。それが「わかる授業」「楽しい授業」につながったと考えられる。一方、質問3・4において、保護者の評価は低い結果であった。その要因としては、生徒の家庭学習の時間確保における課題や、家庭でタブレット端末をあまり学習に使用していないことなどが考えられる。今後、学力向上につなげるためにも家庭学習の習慣化に学校全体で取り組んでいく必要がある。</p>	

③教員が子どもと向き合うための体制の整備	
5 学校の支援体制	6 共生社会を担う人材の育成
学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。
<p>考察 質問5・6において、生徒や保護者から「わからない」という回答が多く見られた。保護者においては、今年度、授業参観で人権学習や道徳の授業を行っておらず、学校の人権教育、道徳教育の方針等を理解してもらう機会を設定しなかったことが挙げられる。次年度は年間計画の中に位置づけ、保護者への啓発を行ってきたい。生徒においては、学校が行っている特別支援学級との交流や特別支援教育の視点での生徒への支援等が、生徒に認識されていないことが結果からうかがえる。また特別支援学級の活動の紹介等も踏まえて、啓発活動を積極的に行い、学校内での共生社会の実現に本校職員が真剣に向き合わなければならないと考える。</p>	

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

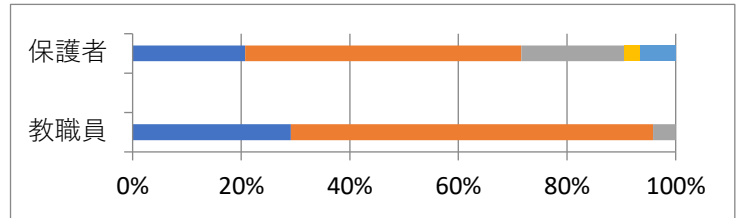
7 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。



8 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

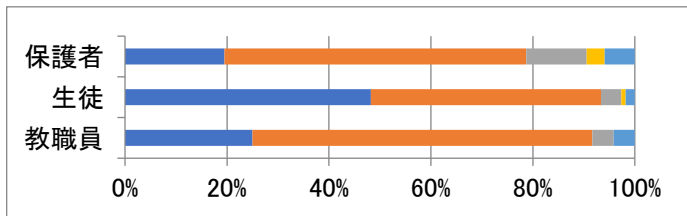


考察
 事故防止に向け、安全・安心を最優先に考えた交通指導、安全指導の取り組みが高い評価につながっている。特に課題が見られた場合には、随時全校集会や校内放送等で指導を行ってきたことが結果につながったと考える。また、指導の継続によって登下校時の事故やケガが減少し、校内生活においても安心・安全を意識した行動が見られた。家庭や地域との連携協力においては、保護者からの評価は十分なものではなかった。その要因としては、コロナ禍の中、PTA活動が制限・縮小化された影響が考えられる。PTAや部活動育成会は、学校に対してとても協力的であるので、今後、活動が制限がされる中でも工夫を行いながら連携を強化していきたい。

⑤学校独自項目

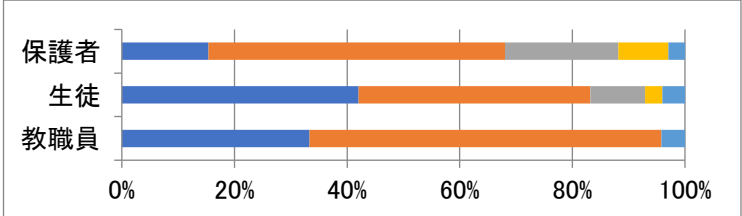
9 本校の教育①

学校は、多様な意見を参考にしながら生徒自身で物事を決定するように指導していますか。



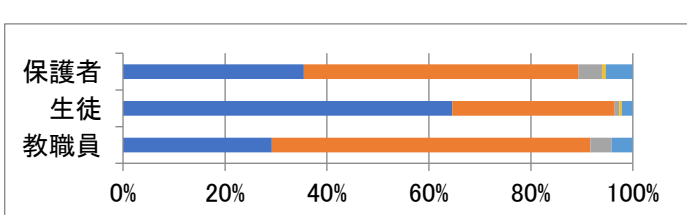
10 本校の教育②

学校は、生徒が自分の思いや考えを周りの人に伝えることができるように指導していますか。



11 本校の教育③

生徒は、友達と協力して活動する中で、友達のよさを認めることができていると思いますか。



考察
 校内研修では、特別活動を中心に据えた自治力向上を目指して取り組んできた。体育大会、学習発表会や修学旅行などの学校行事においては実行委員会を立ち上げ、自分たちで行事を作り上げる自発的・自治的な活動の推進を行った。また、キャリアパスポートを活用し、行事における個人と学級の目標を設定することで、生徒全員が学校行事に参画する自治力の向上につながったと考える。質問11では、保護者の評価は昨年度を大きく上回り、9割近くの到達度を示している。いじめや問題行動が一年間を通じて少なく、生徒指導上非常に落ち着いた状況に学校があるのが要因として考える。生徒指導部と学年部が連携し、組織的でスピード感ある生徒指導が実践できている。現状に満足せず、常に危機意識をもちながら次年度の生徒指導を行っていききたい。

来年度の具体的な取組について

- ①いのちを大切にす心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応
 - ・絆アンケート、心と体のふりかえりシートを活用し、一人一人の生徒に対応した支援を行う。
 - ・不登校傾向の生徒に関する状況や情報を共有し、関係諸機関との連携も含めて具体的な対応策を早期の段階で講じる。
- ②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進
 - ・校内研修において、家庭学習の方法について情報を共有し、検討を行い、家庭学習の習慣に向けて取り組む。
- ③教員が子どもと向き合うための体制の整備
 - ・特別支援教育、人権教育の視点に立った授業支援、生徒支援を行う。
 - ・特別支援教育の啓発活動の場を設定する。
 - ・道徳または人権学習の授業参観を年間計画に位置づけ、家庭と連携した人権教育、道徳教育の実践に努める。
- ④学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進
 - ・安全対策については今年度の取り組みを継続し、教育環境づくりにおいてはPTA活動と連携し取り組む。
- ⑤学校独自項目
 - ・行事等での生徒の自発的な活動の推進、キャリアパスポートの活用を継続し生徒の自治力向上を図る。

学校関係者評価

学校評議員会を学期に1回ずつ開催した。授業参観や意見交換により、生徒が落ち着いて授業を受けていること、生徒が自ら考える場面が授業で多く見られることなど肯定的な評価をいただいた。今後の課題としては、学力向上につなげるためには家庭学習の時間を調べるなど、生徒の学習習慣を作る手立てが必要になるという意見が出された。また、学校指定物品について、家庭の経済的な負担の緩和のために努力してほしいということ、校則検討に関しては、学校で生活する生徒の考えを大切に、今後も検討を重ねてほしいという意見が出された。